

審判員派遣報告書

派遣事業名	令和7年度 第78回全国高等学校バスケットボール選手権大会	派遣期日	令和7年12月23日～24日
報告者	高田 開	派遣先	京王アリーナ TOKYO 東京体育館

1. 大会概要

大会名称	令和7年度 第78回全国高等学校バスケットボール選手権大会	大会期間	令和7年12月23日～29日
大会概要	男女各60チーム参加によるトーナメント優勝戦。		

2. 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和7年12月23日	会場	京王アリーナ TOKYO
審判クルー	CC：小川 氏（宮崎） U1：三浦 氏（東京） U2：高田		
担当試合	（男子1回戦）東海大相模 vs. 東北学院		
試合内容	鋭いドライブと精度の高い外角からのシュートで得点を重ねる東北学院と、フィジカルで勝りゴール下で着実に得点を重ねる東海大相模、前半は僅かに東海大相模リード。後半点差が広がるが、終盤、東北学院の追い上げで一時1ゴール差となるがセカンドチャンスを実際に決め切った東海大相模の勝利。		

日程	令和7年12月24日	会場	東京体育館
審判クルー	CC：紺野 氏（宮城） U1：高橋 氏（山形） U2：高田		
担当試合	（女子2回戦）福井工大福井 vs. 京都両洋		
試合内容	お互いに外国籍プレーヤーを有するチーム同士の対戦。外国籍プレーヤーにボール集め得点する京都両洋に対し、攻撃パターンが多彩な福井工大福井。中盤に速攻を多く出した福井工大福井が流れを掴み、そのまま点差を広げ勝利。		

3. 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

●大会従事での学び

初戦の男子1回戦の従事の前に、クルーでメカニクスの確認を行った。ヘルプディフェンダーの捉え方について、原則エリア優先の考え方のもと、リード、センターそれぞれプライマリとなるパターンを確認した。現場で自分がリードの際に、ストロングサイドからのドライブに対してウィークサイドからヘルプディフェンスがコースに入り込み接触を起こしたシーンがあった。接触が起きたのはリードエリアであるため、リードプライマリであるが、オリジナルマッチアップに気を取られコールに繋がれなかった。のちの反省では、ドライブに対してペイントルーズしていれば、ドライブコースとそこに守ろうと入ってくるディフェンスプレーヤーを捉えやすくなるとアドバイスいただいた。また、従来メカニクスでは、ヘルプディフェンダーを捉えておいて判定に繋げる意識が強かった分、エリア外からのコールが増えていたが、原則エリア優先の考え方によって変わってきているため、エリアにいる、また侵入してくるマッチアップ、ディフェンスを捉える意識をより強く持つておかねばならないと感じた。

また、今大会に臨むにあたり、個人的な課題としてゲームフローに把握すること、チームのやろうとしているプレーを把握することに取り組んだ。初戦の男子ゲームでは、エースプレーヤーに対してフェイスガードを敷くディフェンダーの守り方にメッセージを入れることに注力し、判定に繋がれたケースもあったが、2日目の女子ゲームでは、外国籍プレーヤーへのディフェンスの寄せ方にもっと気を配りクリーンにディフェンスさせるべきであった。ゲームレベルが上がるほど、情報のインプットが非常に重要で、プレーの予測がより良いメカニクス、判定に繋がることを実感した。上級審判員としてゲームに関わるうえで、プレーヤーやコーチと同等、またそれ以上にバスケットを知っている必要があると、全国レベル大会に参加して、また他の審判員との交流を通して強く感じた。県、ブロック外の試合に脚を運び学びの機会を増やすことはもちろん大事であるが、日々の活動からの学び、発信の機会も増やしていきたい。

4. その他

この度は、表題の大会に派遣いただきまして誠にありがとうございました。日々ご指導、サポートいただいております皆様に深く感謝申し上げます。

今大会で得られた学びを自身の活動に生かし、皆さまに共有して参ります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。